

新年のご挨拶

本日はご多用中にも拘りませずご出席を賜りまして誠に有難う御座います。
また、常日頃は当組合にご支援・ご理解・ご指導頂き厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は私が今更申し上げるまでも無く、きわめて規模の大きな震災に見舞われました。この震災で亡くなられました方々には謹んでお悔やみ申し上げますと共に、今なお不自由な生活を余儀なくされておられます被災地の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

3月の東日本大震災に始まり、福島原発事故、7月の新潟福島豪雨や台風12号15号と震災や自然災害が多発し自然の脅威をまざまざと見せつけられ、社会基盤の整備に携わる技術を提供する会社にとりまして改めて我々の技術の考え方や基準の適用について再考せざるを得ない状況に追い込まれました。今後は、復旧、復興へ向けて総力をあげねばなりません、これまでと同じ考えでなく、この度の災害で得られた経験を十分に生かした取り組みが必要となることは論を待ちません。

昨年12月にCO2に関する世界会議がダーバンで開催されましたが、地球温暖化の元凶であるCO2の多量排出国であるアメリカ、中国、インドの三国が納得するための案を今後4年かかって2015年に作成し、さらにその5年後に実施に移すということが決められたそうです。これから9年間の間に温暖化は加速されて、昨年日本だけでなくタイを襲った豪雨やアメリカ東部の豪雪など異常気象は最早異常気象でなく北極海の氷は後十数年で消滅するといわれています。ツバルのような赤道直下の砂州国家は海水で侵食され水没すると警告されています。

未来永劫に続くと考えてきた地球の営みも、「地球のように文明の進んだ惑星は宿命として自然の循環が狂い、この地球もおよそ百年ほどでその生命体は消滅するだろう」との著名な科学者の予言を唯単に世迷言とだけでは済まされなくなっております。

震災の復旧・復興、原発事故の収束に向けて全力を挙げている時期になんとも末恐ろしい話があるものですが、ここ一番国家間の覇権や利害を超えてこの地球規模の環境問題に真剣に取り組まないと杞憂では済まされないこととなりそうです。

さて、本日は日本では余り知名度は高くありませんが、台湾で今なお尊敬され続けている八田興一先生の物語をご覧頂きました。

当組合では今後ともこのように社会資本の整備にご尽力されました日本の大先達のご功績を紹介していきたいと思っております。

欧米に比較しますと建設コンサルタンツの歴史は浅いものの、日本には数多くのコンサルタンツ関連の協会が存続します。行政のご指導により、その多くはそれぞれの持ち味を十二分に発揮されながら会員のために活動されております。

当組合も組合員同士の共同受注や設計J・Vの結成、瑕疵担保保険、融資斡旋等の従来のサービスに加え、今年で4年目に入ります【土木設計技士】の必要性を更に多くの方々に知っていただき、絶対数の増加を図りながら発注機関からの認知を頂けるよう努力する所存で御座います。

日本の国家経済を支えているのは間違いなくその9割を占める中小企業で有ります。

中小企業の下支えなくして、また中小企業が元気でなければ日本の繁栄はありません。

必ずしも中小企業の多くは職場環境に恵まれているわけでは有りませんが、技術の研鑽、伝承、社員教育に経営者の皆様が日夜孤軍奮闘されておられることは想像に難くないところであります。

当組合も中小企業の集合体であります。当組合ができる独自のサービスをますます充実させながら組合員の互助精神を高めてまいりたいと思っております。残念ながら先の東日本大震災への手助けの要請は組合を通じての正式な要請はありませんでしたが、復興に参画される企業から当組合に対し人的援助の要請がきており、これらも含めて組合員の協力を要請したいと考えております。

最後になりますが、建設産業が厳しい時代に入ってから久しいわけではありますが、将来【子孫に誇るべき社会資本を残す】ためにも、日本の【中小建設コンサルタンツ企業がその底力を十分発揮できる】ためにも、また、組合員の皆様が会員メリットを一層享受できますよう役職員一同鋭意努力して参る所存で御座います。

今後ともなにとぞ宜しくご理解ご協力ご指導のほど伏してお願い申し上げます。

平成24年1月25日 於 学士会館
建設コンサルタンツ協同組合 理事長 堀 尚義